

2015年4月の供給レポート

自然守る林業女子 — 杉を伐採、山から運ぶ



「適度に木を伐って山を管理することが、自然を守ることになります。」

「自然に囲まれて働くのは、最高に気持ちがいい。」

全国各地に林業女子会が生まれています。

(2015年3月28日 日本経済新聞記事から抜粋)



今月の木の話

木の年輪幅は本当に南側が広いのか？

日当たりが良いほど光合成によって生産される糖分が多くなるので、南側の木が良く育ちます。

でも、「木の南側が良く育つ、つまり、南側の年輪が広がる」ことにはなりません。

樹幹では樹皮と木部の間の形成層が細胞分裂して径が年々太くなります。新しい細胞の原料となる糖分は、樹木の上部にある葉の葉緑素で光合成によって作られたものです。そして、糖分は樹幹全体にらせん状や扇状に拡散しながらゆっくりと降りていきます。

ですから、木の南側の葉で糖分がたくさん合成されたとしても、幹の南側だけに糖分が集中することにはなりません。

葉から栄養が拡散しながら降りてきて幹が肥大生長するので、南側だけに栄養が偏ることはありません。

(日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋)

